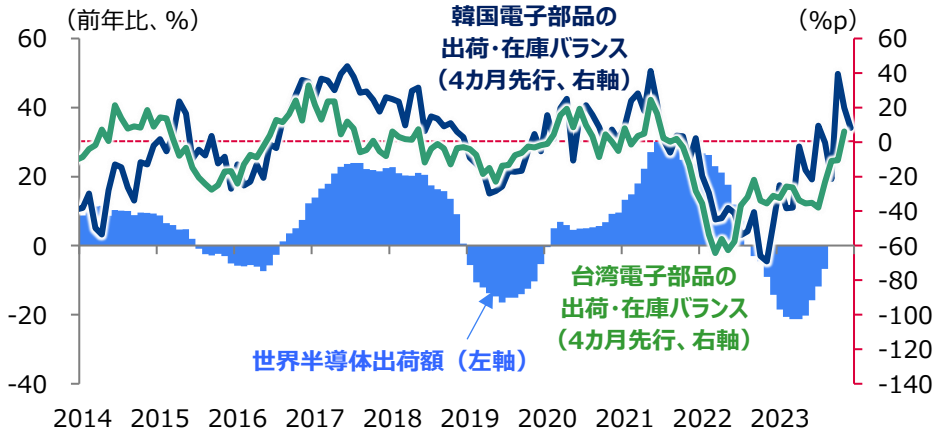


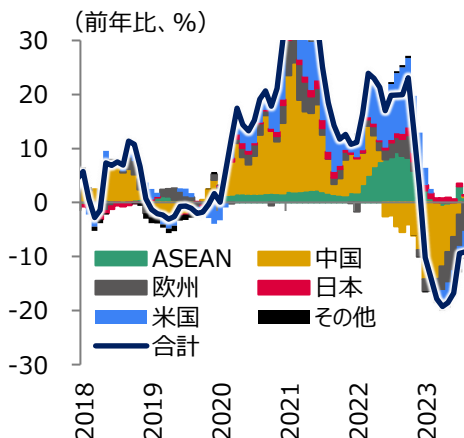
## 世界

半導体市場（2023年8月）  
半導体サイクル底打ちの兆しが随所に政策・経済センター  
堂本健太  
03-6858-2717

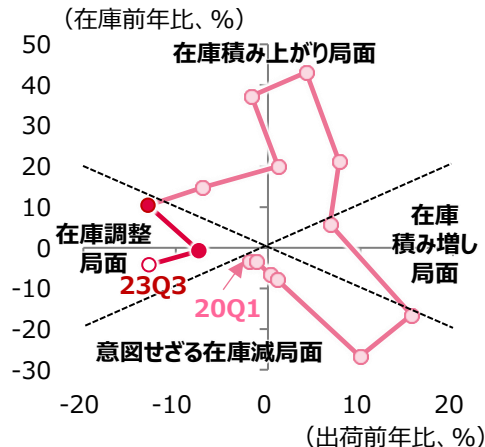
## 1 世界半導体出荷額と先行指標（台湾・韓国の出荷・在庫バランス）



## 2 台湾の電子部品輸出受注



## 3 電子部品・デバイスの在庫循環図（日本）



## 評価ポイント

## 足許の動向

- 23年8月の世界半導体出荷額（名目値、3か月後方移動平均）は、前年比▲6.8%となった（図表1）。13か月連続の前年比マイナスとなったものの、マイナス幅は4か月連続で縮小した。
- 地域別では、欧州（前年比+3.5%）アメリカ大陸（同+0.3%）が前年比プラスの一方、中国（同▲12.6%）、日本（▲2.9%）、アジア太平洋・その他（同▲11.3%）は前年比マイナスが続いている。

## 基調判断と今後の流れ

- 世界半導体出荷額は弱めの推移が続いているものの、底打ちの兆しがみられる。在庫調整の進展に加え、生成AIの普及に伴う需要拡大も追い風になっているとみられる。
- 先行きは、前年比マイナス幅の縮小傾向が続き、23年末から24年初頭にかけて、前年比プラスに転じるとみる。
- 世界半導体出荷額に先行して変動する台湾・韓国の電子部品セクターにおける出荷・在庫バランスはプラスに転じており、生産抑制圧力が弱まっていることを示唆している（図表1）。
- 半導体需要と関係の深い台湾の電子部品輸出受注（名目値）も、前年比マイナス幅の縮小傾向が続いている（図表2）。特に中国（香港を含む）とASEANからの受注は前年比プラスに転じつつあり、東南アジアを中心とするサプライチェーンで生産が回復に向かう可能性が高まっている。
- もっとも、日本の半導体関連セクターの生産回復はやや遅れている。日本の電子部品・デバイス産業の出荷指数（数量ベース）は、23年第3四半期（23年8月速報時点）に前年比マイナス幅を拡大し、在庫調整局面での推移が続いている（図表3）。出荷・生産が前年比プラスに転じるのは24年入り後になるだろう。また、米国の対中半導体規制と中国による対抗措置が世界的な需要の回復に水を差すリスクにも注意が必要である。